

## 静岡県漁業協同組合連合会

1021 静岡市追手町 9-18  
14.11.29 ☎ 054-254-6011  
編集・発行 = 指導部漁政課

### 1. J F 全漁連創立50周年記念・漁協功労者表彰式典・全国漁協代表者集会開催される

去る11月21日、J F 全漁連創立50周年記念・平成14年度漁協運動功労者表彰合同式典が東京のホテルニューオータニにおいてJ F グループをはじめ関係者350名が出席し行われました。式典は、50周年記念映像で漁業・漁村の役割などが紹介され、J F グループ物故者に対し黙祷をささげたあと、全漁連植村正治会長の挨拶、続いて大島理森農水大臣(川口恭一水産庁次長代読)、上野博史農林中央金庫理事長が祝辞を述べられ、その後50周年記念功績者及び漁協運動功労者合わせて148名が表彰されました。本県からは橋ヶ谷金次前県漁連会長、大崎幸三県漁連専務理事、佐藤吉明県信漁連会長、名波源四郎相良町漁協組合長、種石幸枝県漁協婦人部連合会長の5名が表彰の荣誉に輝き、功労者、功績者を代表して船本幸作鳥取県信漁連会長、木山光夫山口漁連副会長の両氏が謝辞を述べました。

その後、全漁連の青木信泰、志澤英美両職員から「J F の21世紀に向けて」と題して宣言が朗読されました。

式典終了後600名の出席のもと祝賀会が開催され、植村全漁連会長の挨拶に次いで木下寛之水産庁長官(川口恭一次長代読)、魏中国漁業協会副会長、車韓国水協中央会会長が祝辞を述べ、鈴木善幸顧問(元首相)、植村会長以下役員総勢18名により鏡割りを行い鈴木顧問の乾杯の音頭で歓談に移りました。なお、国会開催中にもかかわらず多くの衆参国議員が出席しお祝いのスピーチが披露されました。

翌22日には、全国から漁協代表者等500名が出席のもと(本県出席者9名)全国漁協代表者集会在千葉県幕張において「資源の回復で豊かな浜を創ろう。J F 改革を断行して組合員の期待に応えよう」をテーマに開催されました。

集会は、植村全漁連会長よりJ F グループの事業・組織経営改革に向けた運動方針が議場に諮られ、北島哲夫北海道漁連会長がその運動方針の提案説明を行い、続いて木山J F 下関ひびき漁協組合長(山口県漁連副会長)、岡田和子香川県漁婦連(全国女性連副会長)が賛同の意見表明を行ったあと、運動方針が満場一致で採択されました。また、合併促進法の延長 J F マリンバンクの健全性・信頼確保 W T O 交渉 に関する特別決議を合わせて採択し終了しました。

### 2. 御前崎沖沈没船(サントラスト号)油抜き取り作業終る

去る11月21日、先月21日から始まっているサントラスト号(以下S号)の油抜き取り作業について、船主代理人及び油回収作業を請け負った日本サルベージ社より清水海上保安部において説明会がありました。それによると、10月21日より厳しい海象条件の中、日本サ

ルベージ社の作業船日神丸を沈没現場に係留し、潜水作業員がS号の8個の燃料タンクのエア抜きパイプを切断し、それにバルブ及びホースを接続し作業船上に吸い揚げる作業を行ったほか、エンジンルーム、ビルジタンク、船倉からも油の吸い取り作業を行い、合計約4,400リットルの海水混じりの油を回収し、11月19日終了したとの報告がありました。結果的にはS号に搭載されていた燃料油約130キロリットルはほとんど流出したことになりました。

なお、沈没したS号のマストは海面下18mにあり網漁業及び縄を使用する漁業に支障をきたすことが予想されるため、本会ではこのマストの撤去を要望しておりましたが、マストの切断作業に伴う潜水作業員の安全確保の上から3本のマストの下部に切り込みを入れ自然倒壊を待つ処置がなされました。

また、S号は沈没以後幾度となく襲来した台風により船体の損傷が激しく、船首付近の側板がはがれ漁業者から要望されている引上げは困難な状態にある旨併せ報告があり、今後海上保安部としては沈没したこの海域が船舶の航路に当たるため、海図に沈没船の所在を明示することを検討するとしています。

### 3. N P O ふるさと回帰支援センター設立 J F 全漁連も参加

去る11月2日、東京・虎ノ門パストラルにおいてN P O ふるさと回帰支援センターの設立総会が開催され、定款及び役員などを決定し、初代理事長に立松和平氏が就任しました。

J F 全漁連はJ A 全中や全森連、日生協等と共に団体参加し、理事を引受けることになりました。この法人は、都市生活者が地方・農山漁村での就労を目的に定住・一時滞在することに対して、必要な情報の提供、支援に関する諸事業を行い、地域社会の振興・発展と循環型生活文化の推進による環境の保全を図り、もって国土の均衡ある発展・国民生活の向上に寄与することを目的として設立されたものです。

また、総会を記念し、「いま、なぜ100万人の故郷回帰・循環運動なのか」と題した基調講演及びパネルディスカッションが行われました。なお、当面の事業としては大都市生活者を対象にアンケートを実施するほか、ホームページの開設やメールマガジンの発行などを予定しています。

### 4. 県T A C (漁獲可能量) 10月末漁獲実績を発表

県では、この程T A C 対象5魚種の10月末現在の漁獲実績を発表しました。

それによると、マイワシがT A C 数量10,000トンに対し235トンで消化率2.4%、マサバ及びゴマサバは同8,000トンに対し4,509トンで消化率56.4%、またT A C 数量が若干量の魚種では、サンマ213トン、マアジ2,313トン、スルメイカ313トンとなりました。

### 5. 諸会議・日程(12月3日(火)~12月16日(月))

- 既報分省略 -

12月6日(金) 県機船底曳網組合 = 役員会 (静岡市・ブケ東海静岡)

12月7日(土)~8日(日) 県漁連 = 産業フェアしずおか (静岡市・ツインメッセ)